

Pichari ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより

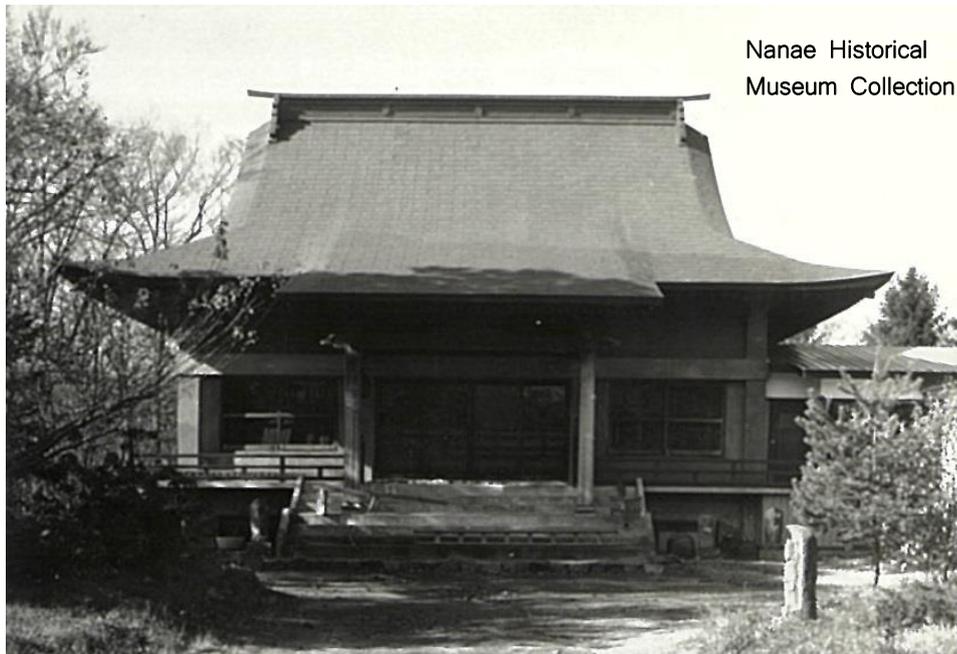
第219号

ななえ古写真物語

VOL.219

三十三観音はいつのもの？

昭和寺のこと
昭和50年ころ
大沼地区



Nanae Historical
Museum Collection

この間、久しぶりに大沼地区にある昭和寺の境内へ足を踏み入れた。雪のせいもあってか、やけに静かに感じたが、同行してくれた方から「この間から、住職不在になったんだよね」と聞き、静けさの腑がおちた。それでも、境内が荒れることなくきれいなのは、誰かが定期的に管理しているのだろうと思った。

昭和寺には、三十三観音が安置されている。その由来について、以前に少しだけ調べたのだが、どうやら弘化4年（1847年）に松浦武四郎が大沼を訪れた際の記録に、「…（中略）沼中の島に三十三所の石像を安置したりと。…此三十三所のかんおん（観音）は、此沼端の茶屋の主人富之助という者二十年以上以前に建し由有…（中略）」とあるのだが、それらが昭和寺に集められたのでは？という説を唱える人もいる。

もし、その通りであると、道南で最も古くに安置された三十三観音になるのだが、結局わからずじまいだった。というのも、昭和寺に残されている観音様は、作風を見る限りでは、同時期のものとも思えず、また、台座には函館市の旧町名の方が寄進していることを示す、文言が刻まれているものもあったからだ。

以上の記録からは、江戸時代に大沼の島々に観音が安置されたのは確かだが、それらを、昭和寺へ移した証拠は見つけられなかった。

そもそも、昭和寺の由緒について、『七飯町史』では、大正元年（1912年）十月一日に、函館市から観音堂を移転したことに始まり、大正2年から、函館高龍寺の住職が大沼説教所とした。大沼法務所とし、釈迦牟尼仏を本尊、観世音菩薩を脇仏として、「函館高龍寺大沼法務所」と称した。以降、檀信徒の増加や建物、什器が完備され一寺として独立するに充分とみなされ、昭和17年（1942年）に、北海道庁へ「昭和寺」という公称を申請し、翌年から名称を変更したという。

そう考えると、台座に函館市の旧町名が刻まれるのも合点がいく、大正時代以降に設置された可能性が高いということになる。ただ、中にはかなり時代がついているな。と感じる観音様も鎮座しているので、もしかしたら、本当に松浦武四郎が記載した江戸時代の観音も含まれているのかもしれない。

三十三観音のほかにも、昭和寺の境内には、句碑が残されていたのを確認した。明治から大正にかけて活躍した巖谷小波の「百二十六島晴れて水の秋」や、同時期に活躍した新聞記者でもあった、松田撫松の「下冷えやふと眼ざむれば夜の雨」である。どちらも大正時代に、大沼を吟遊した折りに詠まれた句である。興味のある方は、足をのばし、大沼の歴史にふれてもらえればと思う。

4月の予定

4日 夜の博物館後期講座第3夜

「史跡鷲ノ木遺跡は、縄文時代後期のストーンサークルで知られていると思いますが、実は造られる前も、造られた後も、人々の営みが確認されています。」そう語るのは、夜の博物館第3夜で講師を務めてくださった片山弘喜氏。長年整備作業に携わり、調査を重ねていく中で、続縄文時代にも列状に火をたく儀礼的な行為がみられ、この時代には過去の建造物としてのストーンサークルも、まだ認識できている可能性が高いそうです。鷲ノ木遺跡の新たな所見に、参加者は熱心な様子で、耳を傾けていました。



21日 ジュニア探検クラブ

冬の大沼を散策しながらめぐりました。案内してくれたのは、自然保護監視員の金澤晋一さん。まずは小沼の周りを歩きます。子どもたちの目に映る、気になるもの、「なぜ?」「どうして?」にていねいに答えてくれました。また出発前に、野鳥を20種探す目標を立てました。歩きながら、鳥の声に耳を澄ませ、みんなで一生懸命探し、見事に達成。最後に湖上を歩く体験もしました。寒風が吹く氷の上を、ずんずん歩く、たくましさも感じた一日でした。



町内小学校の見学

毎年2月は、3年生の「昔の道具しらべ」の一環で見学が多い時期です。火のし、足つきまな板、矢立てなど、見るのが初めてのものに、学芸員が解説をいたします。時代とともに、家にアイロンがない、暖房はエアコン、寝るときは、カイロを使う、矢立ては、その形から、電子たばこを想像するなど、驚くこともあるのですが、見学してくれた子どもたちの、記憶に残る時間作りに、これからも、私たちができることを、続けていきたいと思ひます。



1	水	企画展「GAME」開催中
2	木	
3	金	
4	土	
5	日	
6	月	休館日
7	火	
8	水	
9	木	
10	金	
11	土	
12	日	
13	月	休館日
14	火	
15	水	
16	木	
17	金	
18	土	
19	日	
20	月	休館日
21	火	
22	水	
23	木	
24	金	
25	土	ジュニア探検クラブ
26	日	
27	月	休館日
28	火	
29	水	昭和の日
30	木	

※休館日：6日、13日、20日、27日

石臼 (いしうす。)

開拓時、北海道へ移住した人にも重宝された石臼。のちに苦勞した先祖を偲んで墓の台座に用いたこともあったそうです。



編集後記 ~tawagoto~

廃線、廃駅のニュースを耳にすると、寂しい気持ちになる。長きにわたり、沿線に住む人々や、旅人の思いもせた、列車が走る風景を、見るができないのは、残念だ。今月、函館本線の仁山駅が廃駅となる。木造の駅舎は、風情がある。春には、駅舎の近くの桜が、彩りを添える。信号場として使用されていた駅舎が、移築されてからの歴史は長い。はじまりと終わり。出会いと別れ。時代とともにその役割は変わっていく。

Pichari ~ピチャリ~

第219号

令和8年(2026年)3月20日発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail : rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp